

ワクチン情報文書

血清群B髄膜炎菌ワクチン： 知っておくべきこと

Many Vaccine Information Statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

多くのワクチン情報の説明が、日本語やその他の言語で利用することができます。
www.immunize.org/visを見てください。

1. ワクチン接種を受ける理由は？

血清群B髄膜炎菌ワクチンは、血清群Bによって引き起こされる髄膜炎菌感染症を予防するのに役立ちます。血清群A、C、W、およびYの髄膜炎の感染予防には、別の髄膜炎菌ワクチンがあります。

髄膜炎菌感染症は、髄膜炎（脳や脊髄の粘膜の感染）や血液の感染を引き起こす病気です。適切な治療が行われても、100人中10～15人の髄膜炎菌感染者が死亡します。死に至らなかった場合でも、100人中10～20人の感染者に、聴力障害、脳の障害、腎臓の障害、四肢の損失、神経系の障害、皮膚移植による重度の傷跡などの後遺症が残ります。

髄膜炎菌感染症はまれであり、米国では1990年代から減少しています。しかし現在でも、髄膜炎菌感染症は、死亡や重い後遺症が残る可能性がある重大な病気です。

髄膜炎菌感染症は誰でも発症します。以下を含む特定の人は感染のリスクが高くなります。

- ・1歳未満の乳幼児
- ・16～23歳の青年および成人
- ・免疫力に影響を及ぼす特定の病気にかかっている人
- ・髄膜炎菌感染症の原因菌である *N. meningitidis* の分離株を日常的に扱う微生物学者
- ・地域社会での流行により感染リスクが高い人

2. 血清群B髄膜炎菌ワクチン

感染症を十分予防するためには、血清群B髄膜炎菌ワクチンを2回以上接種する必要があります。現在利用できる血清群B髄膜炎菌ワクチンは2種類あります。すべての接種に同じ種類のワクチンを使用しなければなりません。

血清群B髄膜炎菌ワクチンは、血清群B髄膜炎菌の感染リスクが高い10歳以上の人に推奨されます。

- ・血清群B髄膜炎菌感染症の流行により感染リスクが高い人
- ・鎌状赤血球症の人を含む、脾臓が損傷しているか、摘出された人
- ・「補体成分欠乏症」と呼ばれるまれな免疫系疾患のある人
- ・エクリズマブ (Soliris®とも呼ばれます) やラブリズマブ (Ultomiris®とも呼ばれます) などの補体阻害剤と呼ばれる薬を服用している人
- ・*N. meningitidis* の分離株を日常的に扱う微生物学者

これらのワクチンは、患者と医療従事者の話し合いに基づき、血清群B髄膜炎菌感染症のほとんどの株に対する短期的な防御を目的として、16歳から23歳の人にも投与することができます。ワクチン接種の推奨年齢は16～18歳です。

3. 担当の医療従事者にご相談ください

以下のような方がワクチンを受ける場合には、担当するワクチン接種を行う医療従事者にご相談ください。

- ・過去に血清群B髄膜炎菌ワクチンの接種後にアレルギー反応を起こしたことがある、または重度の生命を脅かすアレルギーがある
- ・妊娠しているまたは授乳中である

場合によっては、担当の医療従事者が血清群B髄膜炎菌ワクチンの接種を次の来院まで延期するように判断する場合があります。

妊娠中の方への血清群B髄膜炎菌ワクチン接種はリスクが高く、医療従事者と相談の上、ワクチン接種のメリットが潜在的なリスクより大きいと考えられる場合を除き、延期する必要があります。



U.S. Department of
Health and Human Services
Centers for Disease
Control and Prevention

風邪などの軽い病気にかかっている場合でも、ワクチン接種を受けることができます。病気が中程度または重度の場合は、回復してから血清群B髄膜炎菌ワクチンを接種するほうがよいでしょう。

詳しい情報については、担当の医療従事者にお尋ねください。

4. ワクチン反応のリスク

- ・血清群B髄膜炎菌ワクチン接種後には、注射した部位の痛みや赤み、腫れのほか、疲労感、頭痛、筋肉又は関節の痛み、発熱、吐き気などの反応がみられることがあります。これらの反応のいくつかは、ワクチン接種を受けた人の半数以上に起こります。

ワクチン接種を含め、医学的な処置により失神する方もいます。目まいや視力の変化、耳鳴りなどを感じたら、担当医療従事者にお伝えください。

どんな医薬品でもそうであるように、ワクチン接種により重度のアレルギー反応や、その他の重篤な傷害や死亡が起こる可能性はごくわずかにあります。

5. 重度の問題が起きたら？

アレルギー反応は、ワクチン接種を受けたクリニックからの帰宅時に生じることがあります。重度のアレルギー反応の症状（蕁麻疹、顔やのどの腫れ、息苦しさ、速い鼓動、目まい、倦怠感）があった場合は、**9-1-1**に電話し、最寄りの病院を受診してください。

気にかかる他の症状がある場合は、担当の医療従事者にお電話ください。

有害反応は、Vaccine Adverse Event Reporting System（ワクチン有害事象報告システム：VAERS）に報告する必要があります。通常、担当の医療従事者がこの報告書を提出しますが、あなたもご自身で提出することができます。VAERSのウェブサイトにはアクセスいただくか www.vaers.hhs.gov、**1-800-822-7967**までお電話ください。VAERSは反応の報告のみを目的としているため、VAERSのスタッフは医学的な助言は行いません。

6. 全米予防接種傷害補償プログラム

National Vaccine Injury Compensation Program（全米予防接種傷害補償プログラム：VICP）は連邦プログラムであり、特定のワクチン接種により傷害を受けた可能性のある方々に補償するため設立されました。ワクチン接種による傷害または死亡の疑いに関する補償請求には提出期限があり、2年という短期間の場合があります。VICPのウェブサイト www.hrsa.gov/vaccinecompensation をご覧になるか、**1-800-338-2382**までお電話いただき、プログラムの詳細および補償請求の方法についてご相談ください。

7. 詳しい情報を知るには？

- ・担当の医療従事者にお尋ねください。
- ・お住まいの地域または州の保健局にお電話ください。
- ・ワクチンの添付文書および追加情報については、Food and Drug Administration（米国食品医薬品局：FDA）のウェブサイト www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines をご覧ください。
- ・Centers for Disease Control and Prevention（疾病管理予防センター：CDC）にお問い合わせください。
 - 電話 **1-800-232-4636**（**1-800-CDC-INFO**）または
 - CDCのウェブサイト www.cdc.gov/vaccines をご覧ください。

